

平成27年度第3回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成28年2月22日（月） 10時

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開 会
- 2 議 事  
平成27年度第2回函館市企業局経営懇話会会議録について
- 3 報告事項  
平成28年度企業局各会計予算（案）の概要について
- 4 閉 会

【出欠状況】

■委員（出席11名）

（○は出席，敬称略）

所 属 団 体	氏 名	出 欠	所 属 団 体	氏 名	出 欠
公立ほこだて未来大学	木村 健一	○	函館市戸井地域審議会	松田 正志	○
財団法人函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館商工会議所	矢野 一英	○
北海道税理士会函館支部	川田 博仁	○	函館水産連合協議会	吉村健太郎	○
北海道電力株式会社函館支店	濱谷 将人		函館地区バス協会	工藤 利夫	
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	河内 孝善	○
函館市町会連合会	深瀬 晃一	○	一般公募	寺尾 豊光	
函館消費者協会	森元 浩	○	一般公募	山本 秀治	○
連合北海道函館地区連合会	八木橋正典				

■事務局（出席23名）

川越企業局長

- ・管理部 渡辺部長，松浦次長，金野総務課長，清本経営企画課長，中村経理課長，島村料金課長，川井管理部参事，藤谷徴収管理課長
- ・上下水道部 鶴巻部長，加保次長，米田管路整備室長，加地業務課長，船山管路整備室参事，濱坂管路整備室参事，萬年管路整備室参事，川村浄水課長，高清水終末処理場長，佐藤東部営業所長
- ・交通部 田畑部長，高坂次長，岩田事業課長，廣瀬施設課長

1 開 会

2 議 事

平成27年度第2回函館市企業局経営懇話会会議録について

－ 会議録原案通り（修正等無） －

3 報告事項

(1) 平成28年度企業局各会計予算(案)の概要について

中村課長

管理部経理課長の中村です。  
<資料説明>

―――質疑応答―――

深瀬委員

3点ほど質問および確認をさせていただきます。

まず、1ページ目ですが、温泉の供給については0.4%増ということで間違いございませんね。それで、この件については、今日はマスコミの方もいらしているので、後ほど、是非、お渡ししたい資料がありますので受け取ってください。

次、2ページ目、下水管の整備ですが、函館市の会計の中で、福祉コミュニティエリアについて、福祉の方ではかなり予算が割かれている。もう少し具体的に申し上げますと、本来は均等に、特に福祉の世界においては中学校区ごとの拡充というのが、いわゆる地域包括ケアシステムで言われておりますが、どうもこの福祉の予算が、かなり福祉コミュニティエリアに偏っているということが言われています。ちなみに下水管は、福祉コミュニティエリアについては未整備の地区であった。そうすると、企業局の会計においてもその部分に予算が集中して、例えば旧市街地のインフラの整備など、いわゆるメンテナンスの部分で十分では無いのではないか、という懸念がされる訳です。その中で、この福祉コミュニティエリア関連の予算について、以前も聞きましたけれどもまだ数字は出せないという回答でしたので、今の段階であれば数字を出していただけることと思いますので、数字の提示をお願いしたいと思います。

3点目です。3ページに、軌道費というのがあります。千歳町でしたか。脱線事故があったことはまだ記憶に新しいところですが、実はあの脱線事故の箇所については、町会にはそれぞれの地域の懇談会がありまして、西部地区の環境整備懇談会において、あの軌道の部分で異常な振動があるという声、地域の住民から挙がってました。たまたまそこが脱線事故を起こしたところ。そうすると、企業局としては西部地区の環境整備懇談会に出席していなかったかもしれませんが土木部は出ていましたから、そこでの地域の住民からの振動の異常があるという報告が、企業局へ伝わっていたのか、そして、脱線の原因ですが、まだどうもつまびらかになっていないところがあるので、その原因について説明をしていただきたい。そうしませんと、また他の場所でも起きる可能性があるかもしれない。市民はやはり不安ですので、脱線の原因、そして、その異常振動との関連ですが、西部地区の環境整備懇談会でそういう議論が挙げたことへの対処というのは、どうなっていたのか、以上が大きく3点でございます。これらについて説明をお願いしたいと思います。

中村課長

まず、1点目の温泉の対前年度比増のご質問ですが、こちらにつきましては、確かに0.4%増という形で予算は組んでおります。なお、この0.4%増の原因につきましては、昨年度まで一部休止していた供給先がありました、そちらが再開したということもありまして、少し増えております。局としましては、全体的な供

給量の削減という方針ではありますが、当初予算においては、対前年度比という形にしますと、このように0.4%増という形になりますが、供給量の削減については、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。また、2点目の、日吉コミュニティエリア関連の事業につきましては、各種工事が何本もありまして、現段階でとりまとめてご説明できませんので、後ほど、まとめた形でご説明させていただきたいと考えております。

廣瀬課長

交通部施設課長の廣瀬です。千歳町での脱線事故に関する件でお答えさせていただきます。まず、異常な振動があるという声なんですけど、私どもの方にはそのような報告は特に来ておりませんでした。それから、脱線の原因なんですけど、まだ結論に至っておりません。現在までに実施してきた調査ですが、脱線直後に、軌道に異常がないか、つまり、軌道狂いと言いまして、例えば、レールとレールの幅が極端に広がっていないか、あるいは高低差が極端についていないか、そのようなものは調査しており、これらに関しては特に異常な数値は見受けられませんでした。他に考えられるとすれば、車両側に何か原因があるのではないかとということですが、車両の方も外観上の検査をすぐにいたしまして、問題無いということでした。そうすると、はっきりとした原因というものが、現在までのところ掴みきれておりませんので、今、車両の分解検査に着手しております。外観上は異常がなかったのですが、今度は目に見えていない部分について、何かあるかもしれないということで分解をしております。その結果が出るまでにはもう少し時間が必要であると捉えております。

深瀬委員

ありがとうございます。マスコミの関係の方もご存じだと思いますけど、とにかく今、福祉コミュニティエリアは誰も住んでいません。野っばらの所です。そこに、本来は事業者側が下水設備を作ると言ったのが、ある時から、行政側で提供するという事になったという経過もお話しておきます。

それからもう一つ、軌道敷の所で、確かにこれは行政のことですから耳に入っていないのはわかるんですけども、その環境整備懇談会は、市民にとって行政に色々な要望を伝えるとても大事な所です。たまたま企業局が出ていなかったからということではなくて、土木部は出ていた訳ですから、是非、今後は、そういったところとの情報の共有をしていただいで、企業局は出ていなかったから知りませんと言うことではない形で。今日の今日でもしょうがないですけども、実際、地域の住民から異常な振動がということが出ていた訳ですから、そういった観点からも調査をしていただきたいと思えます。異常な振動がという所は、それなりのストレスがかからないと、いわゆる静的な状況で測定をしても異常が出ない。ただ、そういうストレスがかかった時に初めてっていうところが、その異常な振動というところの示すことだったと思えます。さらにそういった観点からの検討をしていただければありがたいと思えます。以上です。

中村課長

経理課長の中村です。先ほどのご質問の中で、福祉コミュニティの部分のお話がありましたが、日吉コミュニティ関連の企業局の事業といたしましては、上水道・下水道を合わせ、28年度は約7千2百万円の事業を予定しております。それから、日吉コミュニティの整備の影響で、他の整備などに影響が出ているのではないかとご質問でしたが、こちらについては影響は無いものと考えております。

深瀬委員

後で、数字をいただければ。

三浦会長

私から質問ですが、水道事業の方で紹介がありましたけれども、28年10月か

ら売電が始まるということで、この赤川浄水場から生まれる電気の話について、非常に興味深く見てきました。というのは、今、個人的なことですが、漁港・漁村エネルギーの研究会があるのですが、道南地域で漁村に自然エネルギーを導入しようかという研究会があつて、これは全国的な規模で、東日本と西日本に1箇所位ずつ拠点を想定して、という話が進んでおります。そのような漁村・漁港の自然エネルギー化という問題に関わってきた中で、道南の自然エネルギーの余剰生産能力みたいなものを調べたのですが、この赤川を除くと、小水力発電の可能性は殆ど無いんです。皆さんご存じでしょうけれども、この道南地区というのは、冬場、小さな川は凍ってしまうんです。それで、通年、電力を供給できる資源というものが殆ど無いということがわかりまして、他に温泉熱なども色々と調べた経過もありますが、水力だけに関して言うと、この赤川浄水場の水力というのは非常に魅力的なものだと私は思っています。この小水力発電がこれから売電されて、家庭の規模でいうと何百箇所位という規模で…発電の能力は、一般家庭何件分位でしたか。

川村課長 浄水課長の川村です。赤川高区浄水場で今回発電を予定しております発電量は、一般家庭約260世帯分と考えております。

三浦会長 260世帯も電気を供給できる小水力発電が、浄水場に付加できて、それが年間を通して稼働し続けるというのは非常に素晴らしいなという思いがあります。これをなぜ企業局はもう少しアピールしないのでしょうか。これは自然エネルギー化への協力という観点からも非常に魅力的な事例だと思います。私は環境審議会の会長もしていますけれども、そちらでも話題になるのではないかと思います。環境会議などでも良く話題に出ている風力発電が、今は難しいところがあつて、なかなか自然エネルギーが上手く成功している事例が少ない中で、おそらくこれが一番確実なシステムかなと思っています。色々と企業局もご批判の多い中で、こういう良い話もあるということをおアピールすべきではないでしょうか。様々な場所で、このニュースをもう少し、市民全体、それから、小中学校の教育の場などでも紹介しても良いかなとも思うので、是非、お願いしたいと思っております。

深瀬委員 今回の関連ですけれども、大変私もこれは素敵な話だなと思っております。多分、ここで議論されたことはないと思っておりますけれども、それに対しての資料の配付、郵送でも結構ですが、例えば、夜間の電力で、そのエネルギーをとるところが、あるのだとか、ないのだとか。そういう発想であれば、色々、このことについては知りたいところが多いので。会長は、全部ご存知なのかもしれませんけれども、私ども委員にも、そういった情報の提供を是非お願いしたいと思っておりますが、可能なものでしょうか。

清本課長 ただ今、深瀬委員から小水力発電の関係で資料を提出いただきたいということでしたが、これまでの経営懇話会においても、予算の概要などでお話させていただいておりますけれども、会長ともご相談させていただきまして、考えていきたいと思っております。

・事務局連絡  
事項

(任期中の会議開催予定が無いことについて連絡)

#### 4 閉会